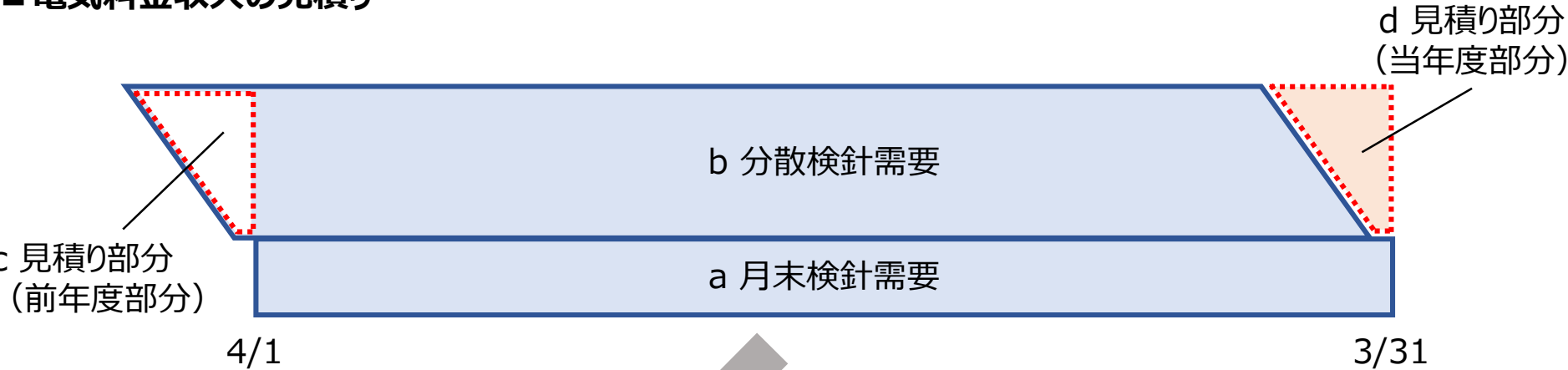
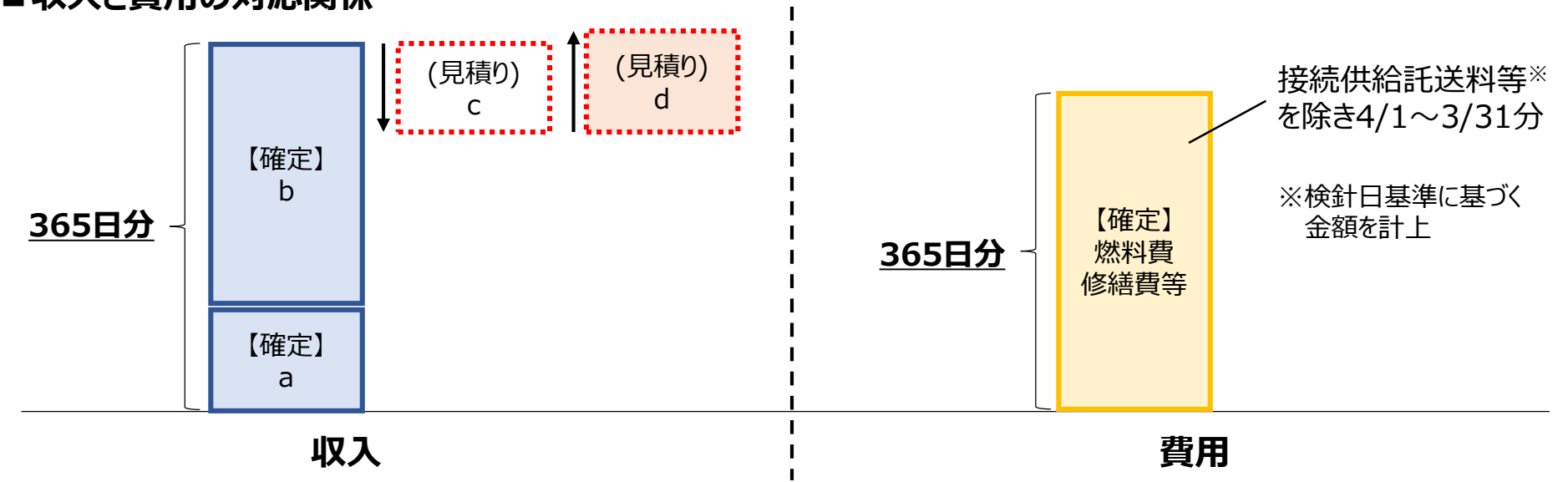


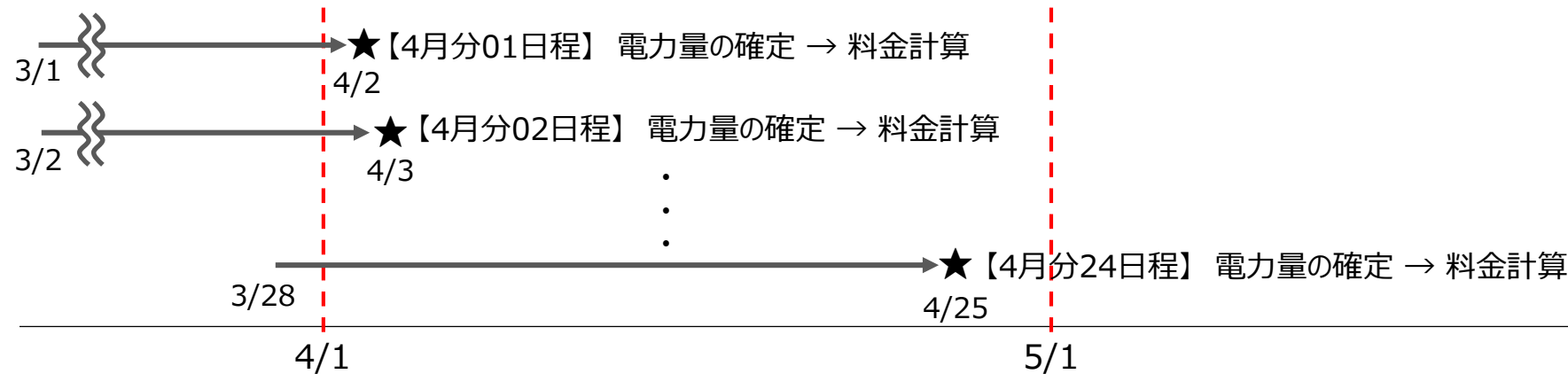
■電気料金収入の見積り



■収入と費用の対応関係



■分散検針における検針日程（イメージ）



■料金計算の流れ

項目	計算例 (関西電力の従量電灯A)	補足説明
お客さまの電力量の確定	260kWh/月	- 当月検針値にもとづき月間電力量を算出 ※季特別メニューについては、時間帯毎の電力量が必要であるため、30分電力量データを使用
お客さまの料金メニューに応じた料金の計算	最低料金341.02円 + 第1段階2,133.60円 + 第2段階3,612.00円 + 第3段階0.00円 = 6,086円 ※燃料費調整額等を含んでいない	- 関西電力の場合、電灯分野の料金メニューは約15種類 - 各検針日において、異動処理・料金計算・請求処理など一連のプロセスを21:00～5:00の計 8 時間で実施しており、このうち料金計算に必要なプロセスは概算で約 4 時間 - 日中は入金データ処理などの通常業務で使用しているため、上記のプロセスを日中に行うことはできない

- ➡
- システム上、検針日ごとに電力量の確定から料金計算までが一連で実施される仕様となっているため、月末に一括で料金計算までを行うシステムに見直す必要
 - 今後、仮に月末に一括で料金計算ができるようになったとしても、エラー対応(例:電力量不審)や通信不具合による現地確認などといった人手による作業は引き続き発生するため、月末の一括業務に移行した場合、業務負荷のピークが立つといった課題が生じる